4章の解答例

演習問題 4

 $\lim_{(x,y)\to(1,1)} (3x^2 - \log xy) = 3.$

(2)
$$\lim_{(x,y)\to(1,1)} \frac{\sin(x-y)}{\cos(x-y)} = \frac{\sin 0}{\cos 0} = 0.$$

(3)
$$\lim_{(x,y)\to(1,1)}\frac{x-y}{x^3-y^3}=\lim_{(x,y)\to(1,1)}\frac{1}{x^2+xy+y^2}=\frac{1}{3}.$$

(4)
$$y = mx$$
 とおくと, $\frac{x-y}{x+y} = \frac{1-m}{1+m}$ なので極限なし.

- (5) y = mx とおくと, $\frac{x}{y} = \frac{1}{m}$ なので極限なし.
- (6) 4.3 節の問7を $f(x,y) = 2 \cos x \cos y$, (a,b) = (0,0), (h,k) = (x,y) とし て応用すると,

$$2 - \cos x - \cos y = \frac{x^2 + y^2}{2} + \varepsilon(x, y)$$

と表すとき, $\lim_{(x,y)\to(0,0)} \frac{\varepsilon(x,y)}{x^2+y^2} = 0$ が成り立つ. ゆえに,

$$\lim_{(x,y)\to(0,0)} \frac{x^2 + y^2}{2 - \cos x - \cos y} = \lim_{(x,y)\to(0,0)} \frac{x^2 + y^2}{\frac{x^2 + y^2}{2} + \varepsilon(x,y)}$$
$$= \lim_{(x,y)\to(0,0)} \frac{2}{1 + 2\frac{\varepsilon(x,y)}{x^2 + y^2}} = 2.$$

- **2.** (1) $y = x^2$ とおくと, $f(x,y) = \frac{1}{2}$ なので, 原点で不連続
 - (2) 極座標表示すると,

$$|f(x,y)| = \left| \frac{r^4 \cos \theta \sin \theta (\cos^2 \theta - \sin^2 \theta)}{r^2} \right| = \frac{r^2}{2} |\sin 2\theta \cos 2\theta| = \frac{r^2}{4} |\sin 4\theta| \leqq \frac{r^2}{4}$$

なので,原点で連続.

- (3) $(x,y) = (t\cos t, t\sin t)$ 上では、 $t\to 0$ のとき、 $f(x,y)\to 1$ となるので、原点 で不連続.
- **3.** 与えられた関数を f(x,y) とする.
- (1) 直接計算から, $f_x = -4xf$, $f_y = -6yf$, $f_{xx} = 4(4x^2 1)f$, $f_{yy} = 6(6y^2 1)f$

を得る。また、
$$f_{xy}=24xyf$$
 は連続なので、シュワルツの定理より、 $f_{yx}=f_{xy}=24xyf$ 。 (2) $u(x,y)=\sqrt{(x^2+y^2)(1-x^2-y^2)}$ とすると、 $f_x=-\frac{x}{u}$ 、 $f_y=-\frac{y}{u}$ 、 $f_{xx}=-\frac{(y^2+(x^2-y^2)(x^2+y^2))}{u^3}$ 、 $f_{yy}=-\frac{\{x^2+(y^2-x^2)(x^2+y^2)\}}{u^3}$ を得る。また、 $f_{xy}=\frac{xy(1-2x^2-2y^2)}{u^3}$ は連続なので、シュワルツの定理より、 $f_{yx}=f_{xy}=\frac{xy(1-2x^2-2y^2)}{u^3}$.

$$u^{3}$$
 $u(x,y)=1+x^{3}+y^{2}$ とすると, $f_{x}=\frac{3x^{2}}{u}$, $f_{y}=2\frac{y}{u}$, $f_{xx}=\frac{3x(2+2y^{2}-x^{3})}{u^{2}}$, $f_{yy}=\frac{2(1+x^{3}-y^{2})}{u^{2}}$ を得る.また, $f_{xy}=-\frac{6x^{2}y}{u^{2}}$ は連続なので,シュワルツの定理より, $f_{yx}=f_{xy}=-\frac{6x^{2}y}{u^{2}}$.

(5) 直接計算より, $f_x = \cosh x \cosh y$, $f_y = \sinh x \sinh y$, $f_{xy} = f_{yx} = \cosh x \sinh y$, $f_{xx} = f_{yy} = f$.

(6)
$$f_x = \frac{1}{x}$$
, $f_y = \frac{1}{y \log y}$, $f_{xx} = -\frac{1}{x^2}$, $f_{yy} = -\frac{1 + \log y}{(y \log y)^2}$, $f_{xy} = f_{yx} = 0$.

4. 与えられた関数 z に対して、 z_x 、 z_y を求め、 $dz = z_x dx + z_y = dy$ とすればよい.

(1)
$$dz = (4xy - 3y^2)dx + (2x^2 - 6xy)dy$$
 (2) $dz = \frac{2(xdx + ydy)}{x^2 + y^2}$

(3)
$$dz = -\frac{2xdx + 3ydy}{(2x^2 + 3y^2)^{3/2}}$$
 (4) $dz = 2\exp\left(-\frac{1}{x^2 + y^2}\right)\frac{xdx + ydy}{(x^2 + y^2)^2}$

5.
$$f(x,y) = \exp\left(-\frac{x^2}{4at}\right)$$
 とおくと、 $u = \frac{1}{\sqrt{t}}f$ かつ $f_t = \frac{x^2}{4at^2}f$ なので、
$$u_t = \left(-\frac{1}{2t^{3/2}} + \frac{x^2}{4at^{5/2}}\right)f.$$

また, $f_x = -\frac{x}{2\pi t} f$ なので,

$$u_{xx} = \frac{1}{\sqrt{t}} f_{xx} = \frac{1}{\sqrt{t}} \left(-\frac{1}{2at} + \frac{x^2}{4a^2t^2} \right) f.$$

$$\therefore au_x x = \left(-\frac{1}{2t^{3/2}} + \frac{x^2}{4at^{5/2}} \right) f = u_t.$$

 $f_{xx} = -\cos x \sin y$, $f_{xy} = -\sin x \cos y$, $f_{yy} = -\cos x \sin y$ なので,

$$f(x,y) = y - \frac{1}{2}(\cos\theta x)(\sin\theta y)(x^2 + y^2) - xy(\sin\theta x)(\cos\theta y)$$

 $f_{xx} = \cosh x \sinh y$, $f_{xy} = \sinh x \cosh y$, $f_{yy} = \cosh x \sinh y$ なので,

$$f(x,y) = y + \frac{1}{2}(\cosh\theta x)(\sinh\theta y)(x^2 + y^2) + xy(\sinh\theta x)(\cosh\theta y).$$

(3) $f(x,y) = \log(1+x^2+y^2)$ とすると、f(0,0) = 0, $f_x(0,0) = 0$, $f_y(0,0) = 0$, $f_{xx} = \frac{2(1-x^2+y^2)}{(1+x^2+y^2)^2}$, $f_{xy} = -\frac{4xy}{(1+x^2+y^2)^2}$, $f_{yy} = \frac{2(1+x^2-y^2)}{(1+x^2+y^2)^2}$ なので、

$$f(x,y) = (x^2 + y^2) \frac{1 - \theta^2(x^2 + y^2)}{\{1 + \theta^2(x^2 + y^2)\}^2}.$$

 $f(x,y) = 1 + (x+y) + \frac{1}{2}(x+y)^2 e^{\theta(x+y)}$

より、 $\frac{f_{\theta}}{r} = -\sin\theta f_x + \cos\theta f_y$. よって、

$$(f_r)^2 = \cos^2 \theta(f_x)^2 + 2\sin\theta\cos\theta f_x f_y + \sin^2 \theta(f_y)^2$$

$$+ \frac{(f_\theta)^2}{r^2} = \sin^2 \theta(f_x)^2 - 2\sin\theta\cos\theta f_x f_y + \cos^2 \theta(f_y)^2$$

$$(f_r)^2 + \frac{(f_\theta)^2}{r^2} = (f_x)^2 + (f_y)^2$$

8. (1) 陰関数 y の定義域を求める. 与式を変形して $y^2 + (3x-2)y + x^2 = 0$. よっ て, $D = (3x-2)^2 - 4x^2 \ge 0$ より,定義域は $x \le \frac{2}{5}$ または $x \ge 2$. 与式の両辺を x に ついて微分すると,

$$2x + 3y + (3x + 2y - 2)y' = 0. (*)$$

y' について解くと、

$$y' = -\frac{2x + 3y}{3x + 2y - 2}.$$

 $y'=-\frac{2x+3y}{3x+2y-2}.$ y'=0 より 2x+3y=0 なので, y=-2x/3. これを与式に代入して x を求めると, $x=0,\frac{12}{5}$. よって極値の候補は $(x,y)=(0,0),\left(\frac{12}{5},-\frac{8}{5}\right)$. 次に, (*) を x について微分 して整理すると.

$$y'' = \frac{10(x^2 + 3xy + y^2 - 2y) - 8}{(3x + 2y - 2)^3} = -\frac{8}{(3x + 2y - 2)^3}.$$

y''(0) = 1 (> 0) なので x = 0 で極小. $y''(\frac{12}{5}) = -1 (< 0)$ なので $x = \frac{12}{5}$ で極大. 以 上より、極小値は 0 (x = 0 obs)、極大値は $-\frac{8}{5} (x = \frac{12}{5} \text{ obs})$.

(2) 与式の両辺をxについて微分すると、

$$3x^2 + 4x = 2yy'. (*)$$

y' について解くと、

$$y' = \frac{3x^2 + 4x}{2u}.$$

よって, y' = 0 のとき, x = 0, -4/3. また, (*) を x について微分して, y' = 0 すると,

$$y'' = \frac{6x+4}{2y}.$$

x = 0 のときは、与式から y = 0 となり、点 (x, y) = (0, 0) 付近では陰関数がただ一つに 定まらない. 一方, x=-4/3 のときは, $y=\pm 4\sqrt{6}/9$ かつ $y''(\pm 4\sqrt{6}/9)=\mp 3\sqrt{6}/2$. よって、 $4\sqrt{6}/9$ は極大値で、 $-4\sqrt{6}/9$ は極小値.

(3) 与式の両辺をxについて微分すると、

$$x^{2} - 2y + (-2x + y^{2})y' = 0.$$
 (*)

y' について解くと.

$$y' = \frac{x^2 - 2y}{2x - y^2}.$$

よって, y'=0 のとき, $x=0,2\sqrt[3]{2}$. また, (*) を x について微分して y'=0 すると,

$$y'' = \frac{2x}{2x - y^2}.$$

x = 0 のときは、与式から y = 0 となり、点 (x, y) = (0, 0) 付近では陰関数がただ一つ に定まらない. 一方, $x = 2\sqrt[3]{2}$ のときは, $y = 2\sqrt[3]{4}$ かつ $y''(2\sqrt[3]{2}) = -1 < 0$. よって,

2 ∛4 は極大値.

(4) 与式の両辺をxについて微分すると,

$$2x + 4y^3y' = 0. (*)$$

y' について解くと,

$$y' = \frac{-x}{2u^3}.$$

よって, y' = 0 のとき, x = 0. (*) を x について微分すると,

$$y'' = -\frac{1}{2y^3}.$$

よって,x=0 のときは,与式から $y=\pm\sqrt[4]{2}$ かつ $y''(\pm\sqrt[4]{2})=\mp1/(2\sqrt[4]{8})$.よって, $\sqrt[4]{2}$ は極大値, $-\sqrt[4]{2}$ は極小値.

- 9. (1) $f(x,y)=x^2+y^3-3y$ とすると, $f_x=f_y=0 \iff (x,y)=(0,\pm 1)$. (x,y)=(0,-1) のときは, D>0 なので極値をもたない. (x,y)=(0,1) のときは, D<0 かつ A>0 より極小値 f(0,1)=-2 をもつ.
- (2) $f(x,y)=\cosh(x^2+y^2)$ とすると, $f_x=f_y=0\iff (x,y)=(0,0)$. この場合,D=0 となるので,定理 11 は適用できない.しかし, $r=x^2+y^2$ とおくと, $r\ge 0$ かつ $r=0\iff (x,y)=(0,0)$. また,r>0 のとき, $\cosh r>\cosh 0=1$. ゆえに, $(x,y)\ne (0,0)$ ならば f(x,y)>f(0,0)=1. すなわち,f は原点において極小値 1 をもつ.
- (3) $f(x,y)=(x^2-y^2)e^{x^2+y^2}$ とすると, $f_x=f_y=0 \iff (x,y)=(0,0)$. この場合, D>0 なので極値をもたない.
 - (4) f(x,y) = xy(1-x-y) とすると,

$$f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (0, 0), (1, 0), (0, 1), (1/3, 1/3).$$

(x,y)=(0,0),(1,0),(0,1) のときは、D>0 なので極値をもたない.

(x,y)=(1/3,1/3) のときは、D<0 かつ A<0 より f(1/3,1/3)=1/27 は極大値.

10. D の内部 $x^2+y^2<1$ の極大値・極小値と D の境界 $x^2+y^2=1$ における最大値・最小値の中から,D における最大値・最小値を選べばよい. (1) $f(x,y)=x^2+2y^2-x$ とすると,D の内部で $f_x=f_y=0$ となる点は,(x,y)=(1/2,0).このとき,D<0,A>0 なので,f(1/2,0)=-1/4 は極小値.

境界における最大値・最小値を求めるために, $F(x,y)=x^2+y^2-1$ として,条件 F(x,y)=0 の下で,f(x,y) の極値を考える.(a,b) で極値をもつとすれば, $a^2+b^2=1$ より, $F_x(a,b)=2a$, $F_y(a,b)=2b$ の少なくとも一方は0 でない.よって,ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 2a(1-\lambda) = 1\\ 2b(2-\lambda) = 0 \end{cases}$$

b = 0 のとき、 $a = \pm 1$ なので、 $\hat{f}(a, b) = 1 \mp 1 = 0, 2$.

 $b \neq 0$ のとき、 $\lambda = 2$ 、a = -1/2 なので、 $b = \pm \sqrt{3}/2$. よって、f(a,b) = 9/4.

以上から, 最大値 9/4, 最小値 -1/4.

- (2) $f(x,y)=(1-x^2-y^2)xy^2$ とすると,D の内部で $f_x=f_y=0$ となる点は, $(x,y)=(0,\pm 1)$, $(1/\sqrt{5},\pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$, $(-1/\sqrt{5},\pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$ と y=0 となるすべての点 $(x,0)\in D$ である.まず,f(x,0)=0 なので,点 $(x,0)\in D$ では極値をとらない.また, $(x,y)=(0,\pm 1)$ の場合も,D>0 となり,極値をとらない.次に,点 $(\pm 1/\sqrt{5},\pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$ では,D<0 となり, $x=1/\sqrt{5}$ ならば A<0 で, $x=-1/\sqrt{5}$ ならば A>0.ゆえに, $f(1/\sqrt{5},\pm\sqrt{2}/\sqrt{5})=4\sqrt{5}/125$ は極大値で, $f(-1/\sqrt{5},\pm\sqrt{2}/\sqrt{5})=-4\sqrt{5}/125$ は極小値.一方,境界上では, $x^2+y^2=1$ を常に満たすので, $f(x,y)=(1-x^2-y^2)xy^2=0$.よって,最大値 $4\sqrt{5}/125$,最小値 $-4\sqrt{5}/125$.
- (3) $f(x,y)=xye^{-x^2-y^2}$ とすると,D の内部で $f_x=f_y=0$ となる点は, $(x,y)=(0,0),(1/\sqrt{2},\pm 1/\sqrt{2}),(-1/\sqrt{2},\pm 1/\sqrt{2}).$ よって,f(0,0)=0, $f(1/\sqrt{2},\pm 1/\sqrt{2})=\pm 1/(\sqrt{2}e)$, $f(-1/\sqrt{2},\pm 1/\sqrt{2})=\mp 1/(\sqrt{2}e)$ は極値の候補となる.

境界上の点は、 $(x,y)=(\cos\theta,\sin\theta)$ と表せるので、 $f(\cos\theta,\sin\theta)=\sin(2\theta)/(2e)$. よって、境界では最大値 1/(2e)、最小値 -1/(2e) をとる.

以上から, 最大値 $1/(\sqrt{2}e)$, 最小値 $-1/(\sqrt{2}e)$.

11. 体積を定数 c > 0 とおいて,辺の長さを横 x,縦 y,高さ z とすると,c = xyz となる.このとき,表面積は 2xy + 2yz + 2xz なので,z を消去して,

$$f(x,y) = 2xy + 2\frac{c}{x} + 2\frac{c}{y}$$

を, x > 0, y > 0 の範囲で最小化する x, y, z の条件を求めればよい.

まず、 $\lim_{x\to 0}f(x,y)=+\infty$ 、 $\lim_{y\to 0}f(x,y)=+\infty$ 、 $\lim_{r\to \infty}f(r\cos\theta,r\sin\theta)=+\infty$ (0 < $\theta<\pi/2$) なので、 f(x,y) は x>0、y>0 で f(x,y) は最小値をもつ.

次に, $f_x = f_y = 0$ となるのは,

$$yx^2 = xy^2 = c.$$

よって、xy(x-y)=0 となるので、x=y. これを、上の式に代入すると、 $x^3=y^3=c$. ゆえに、 $(x,y)=(\sqrt[3]{c},\sqrt[3]{c})$. この場合、D<0 かつ A>0 なので、 $f(\sqrt[3]{c},\sqrt[3]{c})=6\sqrt[3]{c^2}$ は最小値となる。また、z=c/(xy) なので、立方体($x=y=z=\sqrt[3]{c}$)のときが、表面積が最小になる。

12. (1) ab = 2 のとき, $F_x(a,b) = b$, $F_y(a,b) = a$ は 0 でない. よって, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 2a = \lambda b \\ 12b^3 = \lambda a \end{cases}$$

b=0とすると、a=0となるので、ab=2に反する.

 $b \neq 0$ とすると, $(a,b) = \left(\pm 2(3/2)^{1/6}, \pm (2/3)^{1/6}\right)$ であり, $f(a,b) = 4\left(\frac{3}{2}\right)^{\frac{1}{3}} + 3\left(\frac{2}{3}\right)^{\frac{2}{3}}$. 一方, F(x,y) = 0 の下では, $f(x,y) = x^2 + 6/x^4$ は最小値をもつが最大値をもたない. よって, $4\left(\frac{3}{2}\right)^{\frac{1}{3}} + 3\left(\frac{2}{3}\right)^{\frac{2}{3}}$ は最小値となる.

(2) a+b=3 のとき、 $F_x(a,b)=1$, $F_y(a,b)=1$ は 0 でない. よって、ラグラン

ジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 2a = \lambda \\ 4b = \lambda \end{cases} \therefore a = 2b.$$

a + b = 3 なので、(a,b) = (2,1) かつ f(a,b) = 6.

一方, F(x,y)=0 の下では, $f(x,y)=x^2+2(3-x)^2$ は最小値をもつが最大値をもたない. よって, 6 は最小値となる.

(3) $F(x,y) = x^2y^2 - 1 = 0$ のもとで $f(x,y) = x^4 + y^2$ が極値をとる点 (a,b) の候補を求める. F(a,b) = 0 より

$$a^2b^2=1$$
 ······(1)

なので, $F_x(a,b) = 2ab^2 \neq 0$ である. Lagrange の未定係数法より,

$$f_x(a,b) - \lambda F_x(a,b) = 0, \quad f_y(a,b) - \lambda F_y(a,b) = 0$$

を満たす定数 λ が存在する. これより,

$$4a^3 - 2\lambda ab^2 = 0, \quad 2b - 2\lambda a^2 b = 0.$$

$$2a^2 - \lambda b^2 = 0 \quad \cdots \quad \boxed{2}$$

$$1 - \lambda a^2 = 0 \qquad \cdots \qquad 3$$

③より $a^2=\frac{1}{\lambda}$. これを②に代入すると $b^2=\frac{2}{\lambda^2}$. これらを①に代入すると $\frac{2}{\lambda^3}=1$. よって、 $\lambda=\sqrt[3]{2}$. このとき、

$$a^2 = \frac{1}{\lambda} = 2^{-\frac{1}{3}}$$
 $\therefore a = \pm 2^{-\frac{1}{6}}$

$$b^2 = \frac{2}{\lambda^2} = 2^{\frac{1}{3}}$$
 : $b = \pm 2^{\frac{1}{6}}$

よって.

$$(a,b) = (\pm 2^{-\frac{1}{6}}, \pm 2^{\frac{1}{6}}), \quad f(a,b) = a^4 + b^2 = \frac{1}{\lambda^2} + \frac{2}{\lambda^2} = \frac{3}{\lambda^2} = \frac{3}{\sqrt[3]{4}}.$$

条件 F(x,y)=0 のもとでは $f(x,y)=x^4+rac{1}{x^2}$ は最小値をもつが最大値はもとない.

よって,
$$(x,y)=\left(\frac{\pm 1}{\sqrt[6]{2}},\pm \sqrt[6]{2}\right)$$
 で最小となり,最小値は $\frac{3}{\sqrt[3]{4}}$ である.